

大空町有機農業推進協議会（北海道大空町）

協議会の構成員

大空町、東京農業大学オホーツクキャンパス、生産者（22名）、実需者（丸和油脂，おおぞら三味（株）、合同会社大地のりんご、女満別産業開発公社、株式会社ウエニシ等）

生産概要（2019年3月）

- | | |
|---|---|
| ■ 取組面積
有機農業取組面積：40.6ha
うち有機JAS取得面積：37.7ha | ■ 栽培品目：馬鈴薯、かぼちゃ、飼料作物等
■ 有機農産物の生産量：505トン
■ 構成員の主な取引先：20箇所
（例：生協、スーパー、郵便局、有機酪農等） |
| ■ 有機農業者数：11名 | |

成果（2018年→2019年）

- ・有機農業の新規参入者の増加：10名（2018年）→11名（2019年）
- ・有機農業面積の拡大：37.9ha（2018年）→40.6ha（2019年）
- ・有機農産物の販売額：3800万円（2018年）→4200万円（2019年）

有機加工品開発



有機飼料 収穫風景

取組のポイント（取組期間：2018年～）

- 有機農業への参入者の増加に向けた取組
 - ・有機農業現地研修会の開催（東京農業大学名誉教授 吉羽雅昭氏）
 - ・実証圃における現地講習会の開催（（株）大地のMEGUMI有機圃場並びに施設）
→ 有機飼料の収穫量が増加
- 流通・販売の拡大に向けた取組
 - ・地元企業と協力して有機加工品（規格外の南瓜・馬鈴薯を業務用に冷凍加工）を開発。
 - ・販路拡大事業（加工新商品の開発、商談会、イベント等への参加）
→ 有機栽培南瓜の販売単価が増加し、販売額が増加
- 技術の確立・習得に向けた取組
 - ・栽培技術の導入事例収集及び技術交流による栽培技術の向上
 - ・オホーツク有機農業セミナーの開催
講師（株）ローソン マーケティング本部 部長 稲葉潤一氏
（株）秋川牧園 直販部課長代理 尾兼直樹氏



オホーツク有機農業セミナー

一言アピール！

有機農業体験、各種講習会、セミナー等年間を通して開催しています。興味のある方は是非ともご参加ください。

問い合わせ先：

北海道農政事務所
生産経営産業部生産支援課
011-330-8807



網走川流域の会 馬鈴薯収穫体験

協議会の構成員

農業者8名、新規就農者1名、胆振農業改良普及センター2名、元地域おこし協力隊2名、豊浦町4名、その他2名 計19名

生産概要 (2019年3月)

- 取組面積
有機農業取組面積：0.4ha
うち有機JAS取得面積：0.0ha
- 栽培品目：イチゴ、ブロッコリー等
- 構成員の主な取引先：6箇所
(道の駅、札幌の自然食品スーパー等、個人販売)
- 有機農業者数：3名

成果 (2017年→2018年)

- ・ 有機農業の新規参入者の増加：1名(2017年)→3名(2018年)
- ・ 有機農業面積の拡大：0.1ha(2017年)→0.4ha(2018年)



講師及び店主との勉強会

取組のポイント (取組期間：2017年～)

■ 有機農業への参入者の増加に向けた取組

- ・ 新規参入者の課題であった土づくりや販路について、現地指導及び講習会を年に4回実施することで新規参入者が2名定着・増加。また、既存農家と新規参入者のネットワーク構築につながった。
- ・ イチゴ栽培についての栽培マニュアルを作成し、新規参入者等の生産性の向上につなげた。

■ 流通・販売の拡大に向けた取組

- ・ 実需者のニーズを把握するため、H29年12月に札幌エリア、H30年10月に帝国ホテルやプロップスジャパンを訪問し、有機農産物に対する意向調査を実施した。札幌エリアへのイチゴ等の販売に結びついた。

豊浦町オーガニック・エコ農産物推進協議会推進体制図



一言アピール!

味にこだわってつくった美味しいイチゴは札幌の自然食品店「まほろば」、神奈川県横浜市(株)プロップスジャパンで販売しております。ぜひご賞味ください!

問い合わせ先：
北海道農政事務所生産経営産業部
生産支援課
011-330-8807

JAみどりの有機農業推進協議会（宮城県大崎市、美里町、涌谷町）

協議会の構成員

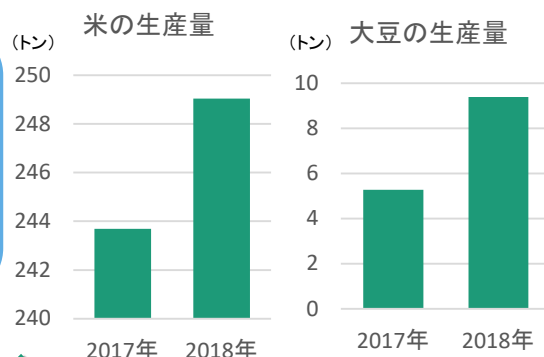
みどりの農業協同組合、(有)たじりエコベジタブル、宮城県美里農業改良普及センター、大崎市、美里町、涌谷町、JAみどりの稲作部会、JAみどりのパルシステム米栽培研究会、田尻産直委員会、田尻産直米部会、田尻地域有機農業研究会、松山酒米研究会、生産者

生産概要（2019年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：113.75ha
うち有機JAS取得面積：67.40ha
- 栽培品目：米・大豆
- 有機農産物の生産量（JA出荷分）：
米249.03ト、大豆9.39ト
- 有機農業者数：23名
- 構成員の主な取引先：県内外の3生協

成果（2017年→2018年）

- 有機農業面積の拡大：111.03ha → 113.75ha
- 有機農産物の生産量（JA出荷分）
米 243.69トン → 249.03トン
大豆 5.28トン → 9.39トン



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■ 有機農業面積の拡大に向けた取組

米や大豆の有機栽培における、最大の課題である**雑草の抑草対策や資材（有機質肥料）**についての知識・技術を、研修会などを通じて会員間で共有することで、会員の技術力が向上し、有機栽培の面積及び生産量の増加に大きく貢献している。

■ 流通・販売の拡大に向けた取組

各種商談会への参加や生協等との交流において、有機農産物の付加価値を積極的にPRし、新たな販売先の開拓に努めている。



一言アピール！

「JAタウン」JAみどりのショップで有機米の販売を行っております。ぜひご賞味ください！
<https://www.ja-town.com/shop/f/f0/>

「有機稲作現地検討会」



有機栽培水稻の生育確認



流し込み追肥を紹介

オガニック農業推進協議会（秋田県男鹿市、三種町）

協議会の構成員

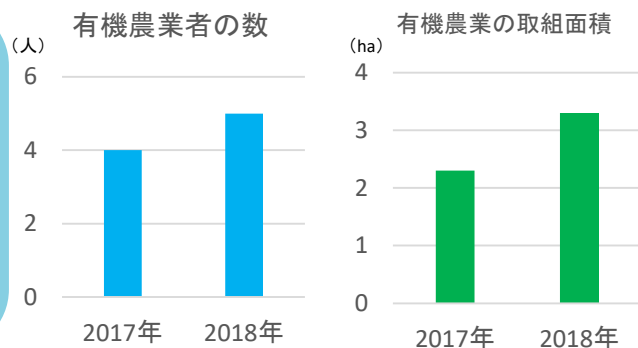
男鹿市を中心とした周辺市町村の農業者、Own GARment products、グルメストアフクシマ、こおひい工房珈音、ベジリンクあきた男鹿、男鹿市、JA秋田なまはげ、地産地消を進める会

生産概要（2019年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：3.3ha
- 栽培品目：大豆、小麦、ソバ、クレソン等
- 有機農業者数：5名
- 構成員の主な取引先：スーパー、総菜店、自然食品店、直売所、飲食店、直接販売

成果（2017年→2018年）

- 有機農業の新規参入者の増加：
4名 → 5名
- 有機農業の取組面積の拡大：
2.3ha → 3.3ha
うち有機大豆と有機小麦の作付面積：
0ha → 1ha



取組のポイント（取組期間：2018年～）

地元出身の30代・40代の起業家3名（服飾関係、精肉店、飲食店）で「オガニック地域構想」を立案し、その一環として協議会を設立（平成30年2月）。農家と連携しながら有機農業の普及を図っているユニークな取り組みである。

■ 地域の若い農家や移住者を巻き込む取組

堆肥づくりや有機農業の経営、さらに有機農業を地域活性化につなげるための研修会の開催等により、有機農業に対する関心を高め、新規参入者の増加に結びついた。

■ 地域の実需者との交流を通じた販路拡大

有機大豆等を加工した試作品や有機野菜を使ったランチの試食会を通じ、大豆や小麦の販路拡大につながった。



有機野菜を使ったランチ試食会（9月）

一言アピール！

オーガニック×男鹿に行く＝オガニック（造語）

規模は小さいですが、それぞれの会員が多様な販路を開拓中！！



問い合わせ先：
東北農政局生産部生産技術環境課
022-221-6214

小川町有機農業推進協議会（埼玉県小川町）

協議会の構成員

小川町、小川町農産物生産直売組合、小川町農業委員会、NPO法人小川町風土活用センター、わだち会、JA埼玉中央、JA埼玉中央西部営農経済センター、小川町教育委員会、小川町認定農業者連絡協議会、小川町有機農業生産グループ、小川町転作集団促進連絡協議会、埼玉伝統工芸会館、埼玉県東松山農林振興センター

生産概要（2019年3月）

- 有機農業取組面積：54ha
- 有機農業者数：31名
- 栽培品目：水稻、麦、大豆等
- 有機農産物の生産量：64トン
- 構成員の主な取引先：4箇所
（生協、スーパー、農協直売所、道の駅等）

成果（2017年→2018年）

- ・有機農業面積の拡大：51.2ha（2017年）→54ha（2018年）
- ・有機農産物の生産量：65トン（2017年）→64トン（2018年）
- ・有機農産物の販売額：12,600万円（2017年）→12,300万円（2018年）



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■有機農産物の安定的な生産体制の構築に向けた取組

- ・ 土壌の排水性・通気性が悪化しやすいほ場で、**耕盤破碎等の効果が期待できる緑肥（セスバニア）を活用した土壌改良を実証**し、その結果と今後の実証成果を踏まえ、小川町の土壌に適した緑肥の選定や適切な使用方法等の内容を充実させた栽培技術マニュアルを作成予定。

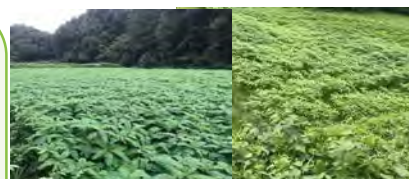
■新規就農者の技術取得に向けた取組

- ・ **研修生の受け入れ先となる指導農家の推薦**を通年で実施するとともに、**新規就農者等に向けた有機野菜の活用事例、農業史、6次化、法人経営等の勉強会（5回）**を行い、新規就農者が多面的な視点を養うことで、就農直後の経営体制の構築及び地域への定着に寄与。

一言アピール！

循環型有機農家のおいしい野菜！

小川町の有機農家は、地域の資源を活用した自然循環型の農業に取り組んでいます。心を込めてていねいに育てた季節の野菜を小川町で味わってください！



（セスバニアを活用した実証ほ場）

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

千葉県有機農業推進協議会（千葉県全域）

協議会の構成員

農事組合法人さんぶ野菜ネットワーク、株式会社シェアガーデン、株式会社オーガニックパートナーズ、株式会社自然農法販売協同機構、オーガニック・エコ農と食のネットワーク、株式会社福島屋、イーサポートリンク株式会社、一般社団法人フードトラストプロジェクト

生産概要（2019年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：88.2ha
うち有機JAS取得面積：44.7ha
- 栽培品目：にんじん、アスパラガス、トマト等
- 有機農産物の販売額：14,700万円
- 有機農業者数：55名
- 構成員の主な取引先：30箇所
（生協、スーパー、農協直売所 等）

成果（2017年→2018年）

- ・有機農業の新規参入者の増加：3名（2017年）→ 7名（2018年）
- ・有機農業面積の拡大：87.5ha（2017年）→ 88.2ha（2018年）
- ・有機農産物の販売額：
14,000万円（2017年）→14,700万円（2018年）



取組のポイント（取組期間：2017年～）

■有機農業の新規参入者の増加に向けた取組

- ・新規就農者及び転換者等を対象に、**栽培技術指導及び農業経営、有機JAS認証に関する研修会**を計5回実施するとともに、実証ほ場における**有機肥料の比較・配合試験の実証結果に基づいて、栽培マニュアルを作成**し、千葉県全域の有機農業者・新規参入者等に配布するなど、有機農業の担い手を育成。

■有機農産物の安定した供給体制の構築に向けた取組

- ・**消費者、実需者、小売店等にアンケート**を実施し、それぞれのニーズを把握するとともに、**有機農産物の物流の共同化に向けた意見交換会**を実施し、安定供給体制の構築に寄与。



一言アピール！

土づくりにこだわって、ふかふかな畑でつくった美味しい人参を福島屋で販売しております。ぜひご賞味ください！



（意見交換会の様子）

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

自然と共生する里づくり連絡協議会（千葉県いすみ市）

協議会の構成員

有機水稻(JAほか9農業団体)、有機野菜(直売所他5農業団体)、自然環境(環境NPO13団体)、地域経済(商工会ほか12団体)の4部会による協議会を構成。事務局はいすみ市農林課と水産商工課。

生産概要（2019年3月）

■取組面積

有機農業取組面積：17.41ha

うち有機JAS取得面積（水稻）：5.4ha

■有機農業者数：22名

■栽培品目：水稻、にんじん、食用なばな、こまつな等

■有機農産物の生産量：65トン
（うち水稻：60トン、うち野菜：5トン）

■構成員の主な取引先：4箇所
（学校給食、直売所、総合スーパー、中食等）

成果（2017年→2018年）

- ・有機農業の新規参入者の増加：4名 → 10名
- ・有機農業面積の拡大：14.11ha → 17.41ha
- ・有機農産物の販売額：1,600万円 → 2,000万円



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■有機水稻の単収向上等に向けた取組（2019年～）

- ・平成29年度に、市内全13の市立小中学校で、全国初となる学校給食全量有機米使用を達成。
- ・令和元年度には水稻の有機栽培を行うほ場でミッドマウント式水田駆動除草機による発芽雑草対策やミネラル、アミノ酸肥料を用いた高品質多収穫栽培を実証しており、単収の向上とともに栽培面積の拡大及び農家数の増加を目指している。

■有機野菜の供給体制構築に向けた取組（2018年～）

- ・学校給食に有機野菜を求める声が高まる中、30年度にはにんじん、食用なばな、こまつな等品目別に実証ほ場を設置し、ロータリー一体型整形機を導入して「太陽熱養生処理技術」を実証。

また、各品目別の栽培に係る研修会等を実施するなど、地域における有機野菜の収量や品質、土づくりにかかる技術体系の確立に寄与。



一言アピール！

房総半島の米どころ「いすみ市」で作られている有機米『いすみっこ』は、子どもたちの未来を支えるおいしいお米です。給食の残食も減りました！



（有機栽培米を食べる児童）

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

湘南オーガニック協議会（神奈川県平塚市）

協議会の構成員

株式会社都実業、有限会社サンシン、農業者、株式会社たんじゅん野菜いかす、NPO法人湘南食育ラボ、株式会社いかす

生産概要（2019年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：5 ha
うち有機JAS取得面積：1.2ha
- 栽培品目：たまねぎ、にんじん、ばれいしょ等
- 有機農業者数：7名
- 構成員の主な取引先：約10箇所（スーパー、レストラン 等）

成果（2017年→2018年）

- ・有機農業の新規参入者の増加：1名（2017年）→3名（2018年）
- ・有機農業面積の拡大：4 ha（2017年）→5 ha（2018年）



取組のポイント（取組期間：2017年～）

- 有機農業の普及・拡大に向けた取組
 - ・作業の有効性等の把握を目的に、**大学と連携して、ほ場間やほ場内での土壌分析、収量調査及び栄養分析等の比較調査**を実施。今後は、経年で当該調査を実施し「技術の汎用化」を実現し、有機農業の普及・拡大を目指す。
- 有機農業者の栽培技術・経営力向上等に向けた取組
 - ・有機農業関係者等を対象に、**土壌診断や農業経営における考え方、パッキング作業、農作業時の体（からだ）の使い方**等の幅広い分野における**講習会**を年6回実施。有機農業者の栽培技術・経営力向上に寄与した。

一言アピール！

たまねぎは初年度単収3.3トン、2年目は単収6トン。生産量も確保しつつ、なによりも美味しい野菜が広まっていくことを願っています。



問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

小田原有機の里づくり協議会（神奈川県小田原市）

協議会の構成員

小田原市、小田原有機農法研究会、農事組合法人小田原産直組合、株式会社報徳農場、NPO法人あしがら農の会、一般社団法人MOA自然農法文化事業団、NPO法人小田原食とみどり、小田原家庭菜園研究会

生産概要（2019年3月）

■取組面積

有機農業取組面積：110.89ha

うち有機JAS取得面積：7.2ha

■有機農業者数：147名

■栽培品目：キウイフルーツ、水稻、野菜等

■構成員の主な取引先：5箇所

（生協、スーパー、食品宅配等）

成果（2017年→2018年）

- ・有機農業面積の拡大：108.19ha（2017年）→110.89ha（2018年）
- ・有機農業者の増加：147名（2017年）→147名（2018年）



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■有機農業者の育成及び技術の向上に向けた取組

- ・緑肥の活用による収量変化の実証結果や有機稲作における月ごとの作業方法等を盛り込んだ**栽培マニュアル（有機の稲作り）**を作成し、有機農業者や新規就農者に配布して農業者の技術を向上させるとともに、有機栽培における**作物ごとの栽培管理等に係る実地指導や有機JAS認証に関する勉強会**、有機農業を活用した地域活性化の取組事例の紹介等を通して有機農業者を育成。

■流通・販売の拡大に向けた取組

- ・実需者と生産者を交えた意見交換会や小売業者からの聞き取り、学校給食における有機米利用の事例調査を通して、実需者等の意向や有機農作物の需要及び取り扱い状況等を把握。また、実証ほ場で栽培した有機の麦や大豆、地元で採れた有機野菜等を使った加工食品を試作。
- ・小田原市内外から約6万人の来場者がある「小田原市農業まつり」において、来場者に試作品の提供及びアンケート調査を行い好評を得た。今後も加工食品のメニュー開発や販売先の検討を行い、商品化を目指す。



（小田原市農業まつりの様子）



一言アピール！

大都市圏から近く、自然環境にも恵まれた中で取り組んでいます！

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会（富山県）

協議会の構成員

富山県農業協同組合中央会、全農とやま、富山県農林水産部、富山市、氷見市、滑川市、南砺市、入善町、朝日町、（公社）富山県農林水産公社、富山中央青果株式会社、丸果株式会社、MOA自然農法富山県連合会、越中土徳の会、氷見有機の里づくり協議会、富山れんげの会、富山県有機農業研究会、（有）土遊野、ログログファーム

生産概要（2017年度）

■取組面積

有機農業取組面積：207ha

うち有機JAS取得面積：126ha

■有機農業者数：71名

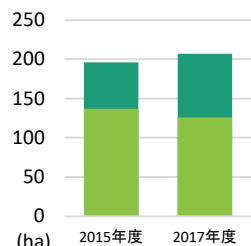
■栽培品目：水稲、大豆、そば、ハトムギ

野菜（サトイモ、キャベツ他）等

成果（2015年度→2017年度）

・有機農業面積の拡大：196ha（2015年度）→207ha（2017年度）
（うち有機JAS取得面積） 137ha（2015年度） 126ha（2017年度）

有機農業面積の推移



取組のポイント（取組期間：2016年度～）

県段階の「とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会」と、地域段階の有機農業団体（5団体）が連携しながら、有機農産物及びエコ農産物の生産拡大に向けた取組を実施

■有機農業面積等の増加や栽培技術等の習得に向けた取組

- ・穴掘り機を使用した土壌改善効果の導入実証。
- ・BLOF理論による有機栽培技術研修会を開催。



栽培研修会（BLOF理論）

■消費者との交流促進の取組

- ・消費者に有機農業やエコ農業のことを知ってもらい、有機農産物等の価値を理解してもらうため、**県内のスーパーと連携し、有機栽培ほ場での生き物調査や収穫体験等の体験型イベント**を開催。
- ・県民向けの**食イベントに特設ブースを設置し**、生産者自らが有機農産物の生産活動をPR。

■産地販売力・育成力を強化するための取組

- ・首都圏の実需者を対象に**ニーズの高い品目や価格等に関する情報収集**。
- ・首都圏のアドバイザーを産地に招き、**県外出荷や加工販売のポイントについて産地指導**を実施。



生き物調査

一言アピール！

協議会活動を通じて、富山県の
有機農業・エコ農業を推進します。

問い合わせ先：

北陸農政局生産部
生産技術環境課
076-232-4893



知多の恵み協議会（愛知県武豊町、南知多町）

協議会の構成員

太田農園、黒田農園、杉浦農園、つなぐ農園、ぶっちゃん農園、大岩農園、chiiai farm、コープ有機

生産概要（2019年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：5.3ha
- 有機農業者数：7名
- 栽培品目：サニーレタス、大根、にんじん、里芋
- 有機農産物の生産量：約10トン（2018年合計）
- 構成員の主な取引先：コープ有機等

成果（2017年→2018年）

- ・有機農業の新規参入者の増加：5名（2017年）→7名（2018年）
- ・有機農業面積の拡大：4.3ha（2017年）→5.3ha（2018年）
- ・有機農産物の販売額：350万円（2017年）→390万円（2018年）



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■BLOF理論に基づいた栽培研修会の開催

- ・新規参入者の課題であった**田畑転換をBLOF理論に基づいて実施する研修**を年3回開催し、新規就農者が2名定着。
- ・**土壌分析結果から施肥設計**を行い、植物生理に基づいた栽培方法を学ぶことにより、新規参入者だけではなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

■地域資材の有効活用

- ・地域の課題となっている放置竹林問題に対し、**竹林整備団体「モリビトの会」と連携し、土壌改良資材としてのポーラス炭活用**を開始。



栽培研修会の様子

一言アピール！

知多半島を有機農業の一大産地にするため、日々頑張っています！！

